

OBOGの キャリアデザイン



※制服は1月撮影時のものです

株式会社JALエクスプレス
スカイキャスト(客室乗務員)

植田 梨津子さん

愛知淑徳大学 ビジネス学部 ビジネス学科 第2回卒業(平成20年度卒業)。
愛知淑徳中学校に入学し、6年間、ギター・マンドリンクラブで活躍。クラスでは
室長を務めることが多く、中学・高校を通してリーダーシップを大きく発揮できる
ようになった。愛知淑徳大学ビジネス学部へ進学後は、学業と両立してラグ
ビー部マネージャーや学外のマーチングバンドの活動に熱中し、さまざまな人と
積極的に交流。卒業後は株式会社JALエクスプレスにスカイキャストとして就
職し、現在、先任客室乗務員として後輩指導にも尽力している。

「淑徳晴れ」の上空で、
多くの笑顔を送らせる
サービスを追求しています。

◆「ギタマン」青春の日々を通じ、
人としての礎も築いた

私は愛知淑徳が大好きです。同級生や先輩・後輩、先生方など多くの人と学び合い、さまざまな挑戦や経験を積み重ねた中、高、大の10年間は、今も心の中で輝き続けています。

特に「私の青春!」と言えるほど、中学高校時代に全力を注いだのが、ギター・マンドリンクラブ、通称「ギタマン」での活動です。振り返ってみると、悩み苦しんだこともあったはずですが、大好きな仲間と大好きな音楽に打ち込んだ、笑顔の絶えない日々が思い出せません。高校2、3年生のときには指揮者も務め、全国大会の大舞台にも立ちました。



ギター・マンドリンクラブで担当した楽器はギター。高校卒業後も定期演奏会に卒業生として出演するなど、「ギタマンLOVE」という熱い思いは在校中も今も変わらない。後列中央が植田さん。

◆「人が好き」という気持ちが高まり
客室乗務員の道へ

当時の部員数は約50人。全員の心をひとつにして、一人では生み出せない多彩で奥深い音色を響かせることが、ギタマンの一番のおもしろさ、喜びでした。仲間と互いに切磋琢磨し、演奏の技術力や表現力を磨き合う中で、社会人として必要な協調性やリーダーシップなども養われていたと感じています。

また、中学生のとき、女性としても憧れる英語の先生と出会って以来、英語の勉強にも力を入れるようになりました。そして「英語を使う仕事に就きたい」という目標のもと、大学では語学力だけでなく、経済学や経営学など実社会に即した知識を幅広く身につけたいと考え、ビジネス学部への進学を決めました。

大学の学修で最も印象深いのは、航空業界における富裕層ビジネスに関する卒業研究です。字びを深めていくうちに航空業界への興味も増し、客室乗務員を志望する思いが高まってきました。さらに、その志が確固としたものになった経験が、ラグビー部でマネージャーとしてチームを支えたことや、学外のマーチングバンドに所属し、世界大会にも出場して国をこえて多くの仲間と絆を築いたことです。「人が好き」「人と人がつながる力になりたい」という気持ちが大きくなり、それは、株式会社JALエクスプレスの客室乗務員「スカイキャスト」として働く、今の私の原動力にもなっています。

現在は羽田空港を拠点に、北海道から沖縄まで日本中の空を飛び回っています。お客様と飛行機の安全を守る保安要員として、また、お客様が快適に過ごせる空間や時間を提供するサービス要員としての使命が果たせるよう、日々努力を重ねています。めざしているのは、お客様はもちろん、共に働く仲間も笑顔にできる客室乗務員です。現在は社



「サービスにゴールはない」という信条のもと、アンテナを広げてよりよいサービスを追求し続ける毎日。仕事では健康管理を最も大切にし、お客様に元気あふれる笑顔をお届けできるよう努めている。

◆「淑徳魂」を胸に、
挑戦する気持ちを忘れない

保安関連で必要な機内で使う鍵に、愛知淑徳100周年記念のキーホルダーをつけています。その理由は、ふたつあります。ひとつは、天候に恵まれた「淑徳晴れ」のもので、安全なフライトができるようにとの願いを込めて。そしてもうひとつは「淑徳魂」を胸に、仕事に真摯に取り組もうという決意を常に持ち続けるためです。私は愛知淑徳で、何事にもあきらめずに挑戦する信念の大切さを学びました。そうした10年間のすべてが、今の自分につながっていると感じています。

愛知淑徳の中学・高校、大学それぞれのステージには、夢の実現のための環境が整っています。後輩の皆さんも、仲間を、先生を、自分を信じて、さまざまなことに自分らしく挑んでいてください。卒業生である私も、小さい夢、大きい夢、いろんなものを追い続け、さらに力強く歩んでいきたいと思っています。